

# 「大妻コタカ著作集」を中心としたデジタルアーカイブの サイトデザインと教育への活用

Design of a digital archive website that focuses on  
“Kotaka Otsuma’s Collection” and its use in education

中川 麻子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>大妻女子大学家政学部

Asako Nakagawa<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Faculty of Home and Economics, Otsuma Women’s University

12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-8357 Japan

キーワード：大妻コタカ著作集，デジタルアーカイブ，手芸

Key words : Kotaka Otsuma’s Collection, Digital archives, Hand craft

## 抄録

大妻コタカは学校教育のみならず，家庭婦人や一般女性に向けた多くの書籍を出版し，大正～昭和時代における家政系教育の裾野を広げた。現在，大妻コタカの著作のうち，大妻女子大学図書館所蔵の31冊がデジタルアーカイブ化され「大妻コタカ著作集」として公開されている。大妻コタカの功績や，当時の学校教育の内容を知る重要な資料であるが，知名度は低く，また閲覧方法への配慮に足りないサイトデザインのために，積極的な利用が妨げられていた。本研究では「大妻コタカ著作集」の活用方法を提案することを目的に，新サイトデザインと学生による作品復元を行った。

方法としては，デジタルアーカイブを活用している既存サイト5例から検討し，博物館データベース型，SNS型，一般的ホームページ型の3種類のテスト用サイトを作成した。3種類のサイトについて学生を対象に調査を行った結果，「大妻コタカ著作集」の全体像を把握しやすく，学生が手軽に閲覧するには，画像を多用した一般的ホームページ型が適していることが明らかとなった。また複数のサイトをリンクさせることにより，サイトの認知度を上げ，閲覧者の増加につながると考えられる。また作品復元等，デジタルアーカイブを積極的に教育現場に取り入れることは，学生の学びを深める手段として有用であると結論づけた。

## 1. 本研究の目的

大妻コタカは明治41年に麹町で裁縫手芸の私塾を開き，大正3年に大妻技芸伝習所を開校した。精力的な学校経営と教育改善を行い，大正～昭和時代にかけて学校組織の改変を繰り返しながら強固なものとし，女子教育に大きく貢献した。その一方で多数の家政学系の著作を残したことで知られている。その内容は，専門的な教科書としての書籍から，家庭婦人や一般女性に向けた書籍や雑誌記事と多岐に渡り，大正～昭和時代における家政系教育の裾野を大きく広げた。

現在，大妻コタカの単著のうち，大妻女子大学図書館が所蔵する31冊がデジタル化され「大妻コ

タカ著作集」として大妻学院ホームページで公開されている（図1）<sup>1</sup>。全ページがデジタルデータ化されており，大妻コタカの業績，当時の教育内容，作品の詳細等を知ることができる貴重な資料である。しかし，このサイトの知名度は低く，学生のみならず，教職員でも知らない人が多い。また使用したことがある人にとっては「閲覧には不便を感じる」という意見も聞かれる。

貴重資料のデジタルアーカイブ化と公開は，国内海外ともに重要視され，大規模な博物館，美術館では積極的に行われている。また家政系，特に服飾分野においては，破損しやすく保管が難しい貴重な服飾・手芸資料の保存と公開のために，デ



図1 大妻学院「大妻コタカ著作集」トップページ

デジタルアーカイブ化を進める動きがある。しかし、実際には資料の撮影、基準作り、著作権・公開の許諾等の問題も多いこと、これに伴う人材の確保や著作権・公開費用の問題から進んでいない現状である<sup>2</sup>。今回は書籍を中心に検討するが、書籍に掲載された作品と連動させることで、より学生の理解を深めることが可能となる。

本研究は「大妻コタカ著作集」に着目し、サイトの構造や問題点などの現状把握を行う。また収録されている大妻コタカ著作の特徴と当時の社会的役割を確認すると共に、記述および掲載作品から適した活用方法と公開方法を探る。さらに「大妻コタカ著作集」の認知度を高め、より使いやすいサイトデザイン等の改善案を提示する。また教育現場での活用を目指し、学生による作品復元の結果を報告する。このことにより、大妻コタカによる家政系教育の特徴が捉えられ、本学の学生の学びを深めると共に、近年進むデジタルアーカイブの活用方法を提案することを目的とする。

## 2. 「大妻コタカ著作集」収録書籍の内容と特徴

### 2-1. 出版年と大妻学院

「大妻コタカ著作集」に収録されている31冊を表にまとめた(表1)。出版年は、1920年代出版が15冊、1930年代7冊、1940年代5冊、1950年代

2冊、1970年代1冊、不明1冊である。出版が最も多い1920年代は、当時の大妻技芸学校が実業学校から高等家政科を増設し、昭和4年3月に財団法人大妻学院の認可、大妻コタカの理事長就任など学校組織として急成長を遂げる時期と重なる<sup>3</sup>。

この時期には大妻コタカの雑誌記事連載やラジオ出演が相次いでいる。1918(大正7)年から『婦人之友』『婦人界』『婦人倶楽部』等の中流家庭以上の女性向けの教養雑誌に連載を開始し、ほぼ毎月、必ず何れかの雑誌に大妻コタカの連載記事が掲載されていた。その内容は「新春手藝 誰にでも出来る袋物細工-名刺入れ」(婦人之友社、1918年1月号)、「非常の場合に痛感した生活改善の活教訓使用に堪へぬ襪(ぼろ)までも活して」(『婦人倶楽部』4)(講談社、1923年11月号)といった衣服の管理に関することや、家事全般を取り上げた記事で、日々の生活にすぐに使える実践的な内容であった<sup>4</sup>。さらに大正14年頃にはラジオ講座にも出演しており、大妻コタカの知名度はより高まった<sup>5</sup>。

書籍や雑誌記事には「大妻技芸学校校長 大妻コタカ」と、学校名と名前が併記されていた。このことで読者にとって大妻コタカと学校は一致し、両方の認知度を上げることにつながった。また雑誌記事の連載期間は非常に長く、確認できるものだけで『婦人倶楽部』1923~1945年、『婦人界』1924~1942年と約20年間に渡っている。1970年までに出版された「大妻コタカ」が著した書籍と雑誌を、国立国会図書館の蔵書検索したところ、雑誌377件、図書88件がヒットした。特に雑誌記事については、教育雑誌から家庭婦人向け雑誌まで幅広く執筆している。このことから当時「大妻の校長が書いた書籍」やラジオ番組の社会的ニーズがあったことを示している。また昭和26(1951)年『現代和服裁縫全書』は68刷を重ねる等、書籍のほとんどが重版されている<sup>6</sup>。大妻コタカの書籍が長期間に渡り愛読されていたことが分かる。

「大妻コタカ著作集」に収録されている書籍の内容からカテゴリーに分けると、「裁縫」14冊、「手芸」7冊、「礼儀作法」4冊、「家事」2冊、「裁縫・手芸」1冊、「洗濯」1冊、「水引」1冊、「エッセイ」1冊であった。裁縫が最も多く、次いで「手芸」、「礼儀作法」と続く。裁縫分野の書籍は、1920年代までは専門的な内容が多い。例えば『模範裁縫教科書』(全5巻、1926年出版)のはしがきでは

表1 大妻学院「大妻コタカ著作集」一覧

題名	カテゴリー	出版年	出版年(和暦)	発行所	ページ数	内容、紹介作品	備考
1 礼儀作法	礼儀作法	1924	大正13年	婦女界社、 婦女界大阪支社	204	水引	母之友業書第九編
2 模範裁縫教科書(1)	裁縫	1926	大正15年	三省堂	76	高等女学校・各種学校の教科書用、基礎技術、襦袢、子供帯、単、四つ身	
3 模範裁縫教科書(2)	裁縫	1926	大正15年	三省堂	76	和裁、縮入、長襦袢など	
4 模範裁縫教科書(3)	裁縫	1926	大正15年	三省堂	80	和裁、足袋、羽織、ミシン使用法、婦人シャツ、割烹前掛など	
5 模範裁縫教科書(4)	裁縫	1926	大正15年	三省堂	112	男袴、男物単羽織、丸帯、男帯、小袖袷重ね	
6 模範裁縫教科書(5)	裁縫	1926	大正15年	三省堂	152	子供用洋服について、女児服、男児服、コート	
7 和洋裁縫講義	裁縫	1927	昭和2年	大興社出版	211	子供服などの裁縫	
8 裁縫と手芸	裁縫、手芸	1927	昭和2年	大興社出版	160	糸の結び方、子供服、毛糸編、レース編	
9 おさいくもの新書	手芸	1927	昭和2年	金星堂	380	袋物基本、名刺入、袱紗挟み、銀貨入れ、オペラバッグ、摘み細工(団扇、写真入等)、壺細工等、儀式用折紙水引	「大妻一恵」の名あり
10 日常作法 折紙と水引	水引	1928	昭和3年	文光社	139	金銀包、熨斗月紙幣包、結婚金包	
11 和服裁縫	裁縫	1928	昭和3年	文化生活研究會	148	長着、本裁羽織、長襦袢、帯、袴、コート	「家庭科学大系」(22)和服裁縫、第7回本装丁 岸田劉生、非売品
12 新型編物と手芸	手芸	1928	昭和3年	大興社出版	168	花びん敷、網代編ショール、足袋カバー、マクラメ編の基礎、羽織の紐、子供帽子、銀貨入れ等	
13 家庭洗濯と汚点ぬきの仕方	洗濯	1929	昭和4年	大妻同窓會出版所	126	洗濯用薬品、色留法、各種洗濯、各種洋洗濯等	
14 初歩の手芸	手芸	1929	昭和4年	忠誠堂蔵版	197	人形細工、造花、摘細工、袋物、編物(靴下など)、水引、染色	
15 日常常識 礼儀作法	礼儀作法	1929	昭和4年	岡村書店	302	礼法の必要、日常の常識礼法、訪問の禮方、贈答の禮、設備と裝飾、吉事の禮等	サイトでは1939年と紹介しているが、初版は1929年である。
16 実用作法新教科書	礼儀作法	1930	昭和5年		169	容儀、言語、応対、姿勢、歩行、訪問の心得、礼服、招待、食事等	
17 標準裁縫書(前編)	裁縫	1931	昭和2年	三省堂	303	基礎的技術、襦袢、本裁女物単衣、四つ身、長襦袢、女袴、合羽、男物袴、羽織、子供帯、子供用洋服等	横書き、写真が多い、これまでの内容を再編集している。和装、洋装まで含んでいる
18 現代裁縫全書	裁縫	1934	昭和9年	研文書院	550	基礎縫、仕上げの方法、襦袢、単衣、羽織、半纏、被布、袴、赤ちゃん服、子供服、足袋、琴の袋、琵琶の袋、三味線の袋、暖簾、袱紗織、鏡掛等	付録として「衣服仕立方の急所と秘訣」羽織の前身の皺の取り方、肥えた男物長着、瘦せた女物長着等)、巻末に釐尺とメートル尺の換算表
19 婦人服子供服 洋裁の初歩より付ミシンの使方	裁縫	1934	昭和9年	研文書院	268	基礎、ミシン縫の基礎、下着、単服、子供服(セーラーズーツ、スカート等)、婦人服(ブラウス、スカートなど)、雑ノブ(帽子、エプロン、割烹着、ワイシャツ)	すべてをメートル、付録に(洋服の着方について、着方の順序等)
20 買物の上手下手	家事	1936	昭和11年	財団法人 社会教育協會	50	家庭予算の要諦、真の買物上手、日用品の買方等	婦人講座第72篇、
21 母の礼法	礼儀作法	1939	昭和14年	婦女界社版	222	学齢前の幼児のお躰け、小学一年生のお行儀、女学校3、4年生の礼法、お母さんの礼法等	母の文庫
22 母の手芸	手芸	1939	昭和14年	婦女界社版	270	赤ちゃんへ(お魚の枕、うさぎの枕、毛糸の靴等)、三歳のお子様へ、手芸基礎知識、フランス刺繍の基礎、釣針、家庭で出来る染色)	母の文庫
23 現代手芸全書	手芸	1940	昭和8年	研文書院	615	編物篇(釣針編、棒針編、応用編、タッチング、マクラメレース)、ドロンウオーク、基礎縫、応用縫、仏蘭西刺繍、フラワーリリアート、縫細工、瓶細工、水引、若き女性に送る等)	「文部省認定」、編物、刺繍を中心として、瓶細工、レース、水引、礼儀作法までに及ぶ
24 現代和洋裁縫全書	裁縫	1946	昭和21年	女子教育社	268	和服の部(基礎縫、襦袢、衣類の量み方、単衣、袴、羽織、半纏、被布、合羽、袴、夜具、赤ちゃん物、雑部、繰返し、衣服仕立の急所と秘訣、作法、汚点抜、若き女性に送る等)	表紙には「現代」の語がなく、奥付のみにあり。
25 現代裁縫全書	裁縫	1946	昭和20年	桃山書林	550	基礎縫、仕立てる前の準備、衣服の量み方、襦袢、単衣、袴、羽織、半纏、合羽、袴、夜具、赤ちゃん物、子供用小物、繰返し、衣服の仕立方の急所と秘訣、作法上から見た着物の着方、汚点抜の仕方)	装丁なし、内容は以前のものを再編集したものと思われる
26 毛糸編物全書	手芸	1947	昭和22年	女子教育社	288	編物(釣針編、棒針編、応用編)タッチング、マクラメ、ドロンウオーク、基礎かから、応用編等	「現代手芸全書上巻改題」巻末に「現代手芸全書」下巻の目次のみが掲載されている
27 家庭洋裁入門講座	裁縫	1949	昭和24年	婦人画報社	158	布地、洋裁用具、ミシンの使用法と修理法、寸法、型紙の補正、ステッチ、縫代の始末、パインディング、タック、ポケット、ベルト、袖、レース等	巻頭にファッション雑誌のようなイラストレーション、洋風の横書きの誌面、洋裁の基礎、型紙補正、部分縫いの方法、巻末に洋裁用語集
28 現代和服裁縫全書	裁縫	1951	昭和26年	東京書院	612	24番とほとんど同じ内容、昭和29年68版が収録されている。	
29 最新実用 家事全書	家事	1953	昭和28年	日本女子教育會	641	衣服の部、食物の部、住居の部、看護の部、育児の部、家庭管理の部、雑の部	「扉」には「女性 教養家事全書」、はしがきは昭和11年日本人の着物が現在になった様子、礼装、織物の原料、着物の核、家具類、絞染の詳しい方法、栄養素(ビタミンAなど)、肉、魚の部位、水の濾過、清涼飲料水、調味料、季節の献立、レシピ、住居、間取り、看護方法など、今までにないほど多岐にわたっている。
30 ごもくめし	エッセイ	1979	昭和36年	大妻学院	207	ふるさと、ダムで湖底に、私の結婚、大妻家のこと等)	平成29年電子復刻版、非売品
31 袋物講義	手芸	不明	昭和2年頃?		208	用具と材料、血刺名刺入、日の出形銀河切、小形バッグ、朝日巻煙草入、九重型琴爪入、常盤バッグ、立太子子式念ひバッグ等	目次に「裁縫袋物講義」とあり、最初のページがp. 109で袋物料となっている。緒言は「大妻一恵」とあり、奥付なし、出版年、出版社不明。京都府立総合資料館に「大妻一恵、袋物料」(袋物講義の名称もあり)所蔵。こちらは和綴じ。出版年は不明。立太子子礼の袋物があるので、大正5年(昭和天皇 裕仁親王)または昭和27年(平成天皇、明仁親王)の時期と見られる。特に9番『おさいくもの新書』と似通った内容であること、および「大妻一恵」のペンネームからも、本書も昭和2年前後とも考えられる。

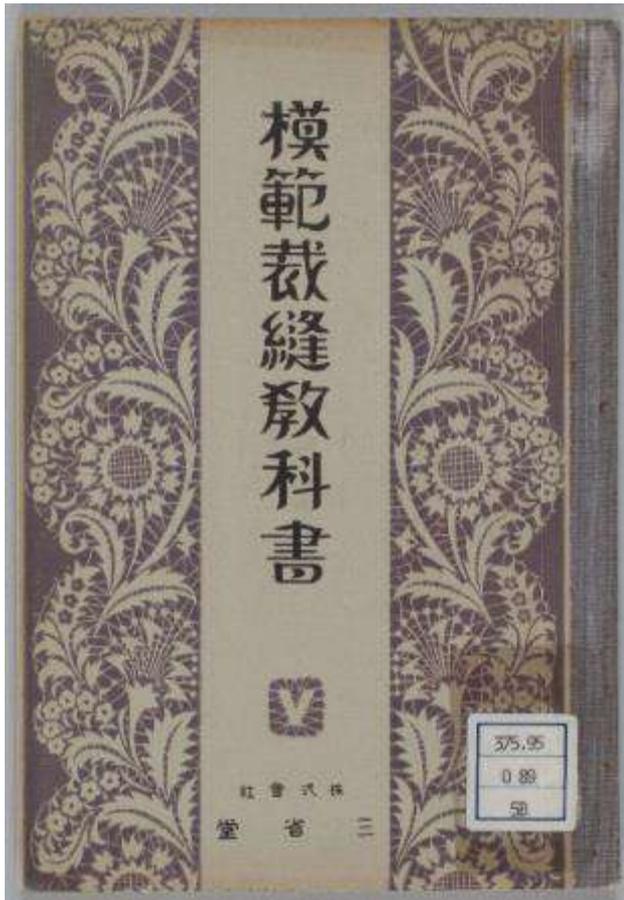


図2 『模範裁縫教科書』第5巻，表紙

「高等女学校および各種学校の教科書として」と述べられており，文中も専門用語が多い（図2）．このシリーズは第1～4巻が和裁の教科書となっており，単衣，小袖袷重ね，襦袢，足袋の他，子供用の四つ身，綿入，男袴，羽織，丸帯等の応用的な作例も紹介され，生活に関係するあらゆる衣服を網羅していた．第5巻は洋裁で，主に子供の洋服やコートなどが挙げられていた．1931年出版の『標準裁縫書（前編）』（三省堂）は和裁と洋裁の両方を取り扱っている．また横書きの誌面となり，またイラストレーションに加え写真画像が使用されており，時代に合わせて変化しているのが分かる．

『婦人服子供服 洋裁の初歩より』（研文書院，1934年）はすべての寸法がメートル法の表記のみとなり，洋裁の基礎，ミシンの使い方から，子供用のセラーズーツ，婦人用のブラウス，スカート，割烹着等が掲載されている．1949年に出版された『家庭洋裁入門講座』（婦人画報社）の冒頭では，海外のデザイナーについて取り上げら

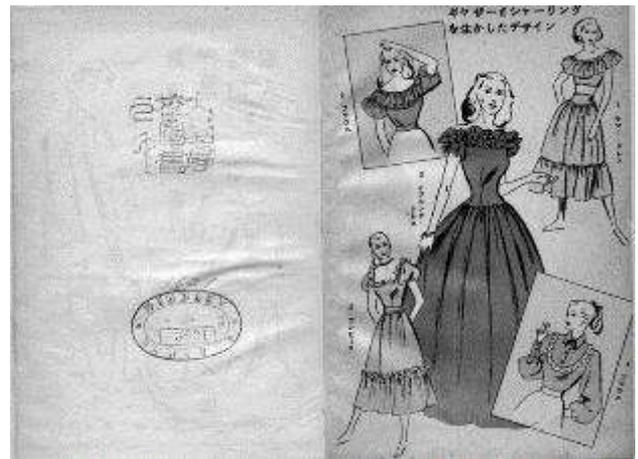


図3 『家庭洋裁入門講座』，口絵

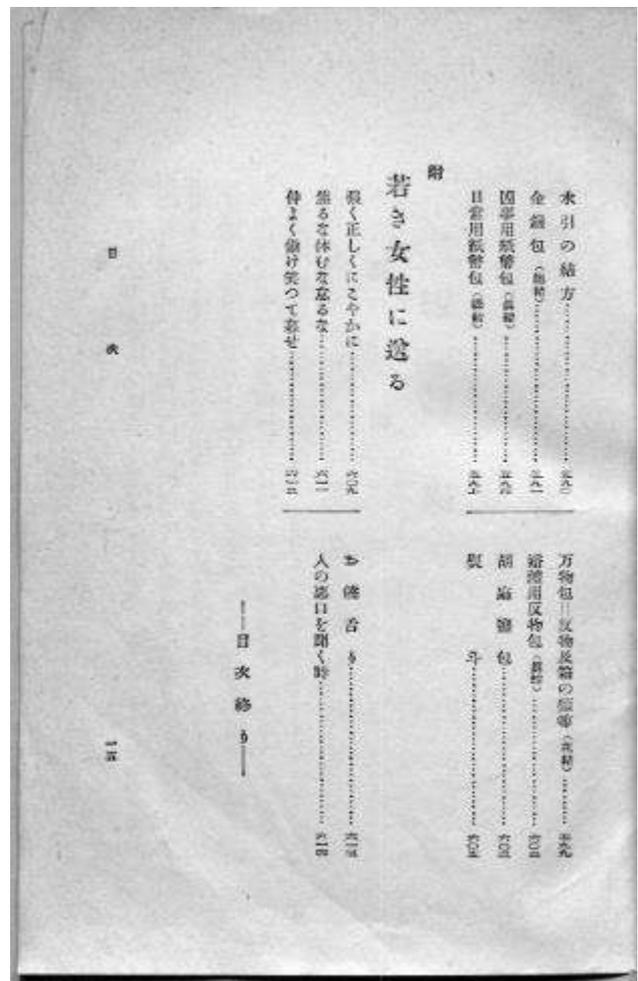


図4 『現代手芸全書』目次「若き女性に送る」

れ，誌面もファッション雑誌のような雰囲気に変化した（図3）．

手芸分野の書籍は，袋物（現在のバッグや小物入れ）や帽子といった実用的な服飾品，人形やぬ



がったと考えられる。

また、高等教育を受けていない女性や、家庭に入った若い主婦に対し、裁縫・手芸の技術だけでなく、礼法や道徳を厳しく、時にユーモアを交えて語る文章は親しみやすく、家政学の普及に大きな影響を与えた資料であることが明らかである。

「大妻コタカ著作集」は、当時の衣類事情、家政分野発展の様子、大妻学院での教育等を知る重要な資料である。しかし、多くの図書館では貴重書や閉架資料となっている。デジタル化された資料は国立国会図書館でも公開されているが、館内限定公開となっている。こうした状況を見ると、全文がインターネット公開されている本学の「大妻コタカ著作集」は、誰でも手軽に大妻コタカの著作を読むことができる貴重なものであるといえる。

また大妻女子大学博物館に所蔵されている約400点の手芸作品と、著作で紹介されている作例とは似通ったものが多いが、これまで紹介されることも殆どなかった。こうした現存作品と関連づけ、誰でも自由に閲覧できる仕組みを作ること、家政分野の研究および学生教育の発展にとっても有益であると考えられる。

### 3. 「大妻コタカ著作集」サイトデザインの検討

#### 3-1. 現在のサイトの現状把握とデザイン・使用感についての調査

「大妻コタカ著作集」のページは、大妻学院ホームページの左下であり、バナーをクリックすると「大妻コタカ著作集」トップ画面のページとなる。ページ上部の説明文の後に、年代ごとに著作が並べられ、表紙画像と書籍名が羅列されている。それぞれの表紙画像の右下に「詳細をみる」というリンクがある(図7)。これをクリックすると、全ページのPDFファイル(以下、PDF)がダウンロードされる。ダウンロードしたPDFは別名保存ができ、印刷することも可能となっている。

「大妻コタカ著作集」の認知度と使用感を明らかにするために、本学学生と卒業生25名に調査を行った。調査はウェブアンケートの形式で1)認知度、2)パソコンで閲覧した際の使い心地、3)良い点、4)悪い点を挙げてもらった。

結果として「大妻コタカ著作集」の認知度は低く、「まったく知らない」と答えた学生は65%、「書籍があることは知っていたが、サイトの存在は知らなかった」が13%と合わせると78%に登り、ほ



図7 著作集ページの拡大図と「詳細をみる」ボタン(クリックするとダウンロードされる)



図8 国立国会図書館デジタルコレクション



図9 国立国会図書館デジタルコレクションサイトのサムネイル表示と目次リスト(左タブ)

とんどの学生がサイトを知らなかった。また使い勝手について最も多い不満は「書籍詳細を押すと同時に、全ページダウンロードされて困る」という点であった。インターネット環境にもよるが、1冊につき約3~5分程度かかる非常に大きなデータが、予告なしにダウンロードされ、また途中で止めることができない。このためスマートフォンなどで閲覧した場合は、負担がかなり大きいと考えられる。また「書籍の内容をあらかじめ確認し

たい」という意見も多かった。

ダウンロード後のデータについては「全ページが見られる」「図書館に行かなくても資料を見られる」という利点はあるが、その一方で「拡大しても文字や図版が小さい」「ページのスキップができない」という意見があった。

次に、「大妻コタカ著作集」を知らなかった学生5名に、サイトをパソコンで閲覧してもらいながら、使い勝手について対面調査を行った。対面調査の意図は、サイトを使用する様子や、記述式アンケートでは見えにくい細かな不満や改善案を明らかにするためである。

この調査でも、最も多い不満は「詳細が分からないまま全ページがダウンロードされる」と「詳細が分からない」ことであった。データについて閲覧してもらったところ「この書籍が何ページあるかが分からない」、また PDF 閲覧中は書名が見えないため「何の書籍の、何に関するページを読んでいるのかが分からない」といった意見が挙がった。ページを見る際も拡大ができないため、旧仮名遣いや旧字の漢字が読みにくいとの声もあった。資料がダウンロードされると、画面をスクロールするが、積極的に読もうとはせず、目立つ図版を探して飛ばし読みをしていた。このため目に付くサムネイル表示が必要である。

改善案としては、国会図書館のデジタルアーカイブのような「しおり機能」「サムネイル表示」「目次リストの固定表示」の希望が出た。また書籍についての紹介があったほうが良いとの意見があった。また「学院ホームページではなく、図書館のホームページで紹介があれば気がついたかも知れない」「大学のホームページであれば、入学前の高校生が興味を持って読んでくれるのではないか」という意見も挙がった。

### 3-2. 他の博物館、図書館等のデジタルアーカイブサイトデザイン調査

「大妻コタカ著作集」の認知度を上げ、使いやすくすることを目標に、既存の博物館および図書館等のデジタルアーカイブについて調査した<sup>8)</sup>。

対象は、1.国立国会図書館「デジタルコレクション」2.国立公文書館「デジタルアーカイブ」3.瑞穂町図書館（西多摩郡）「デジタル地域資料」4.英国ヴィクトリア&アルバート美術館「Search of collection」5.同館「インスタグラム」の5つについて、パソコンおよびスマートフォンで閲覧し、レ



図10 国立公文書館デジタルアーカイブ

アウトデザインの分析をした。

#### 3-2-1. 国立国会図書館デジタルコレクション

国立国会図書館が提供するデジタルアーカイブ資料のデータベースで、詳細な検索と、特集コンテンツから検索ができる(図8)。研究者のみならず、大学生や一般人まで様々な利用者が閲覧するサイトである<sup>9)</sup>。検索画面には分類された画像と検索語と、検索フォームが出てくる。検索語を入れると、結果がリストで表示され、これをクリックすると左側に目次と詳細書誌情報の独立タブ、右側にページデータが現れる。ページデータについてはサムネイル表示も可能である(図9)。左側の目次から、任意のページを直接開くこともでき、使い勝手は非常によい。データはウェブ閲覧用に解像度を落としているため、閲覧はスピーディに進めることできる。印刷設定をすると高解像度のデータをダウンロードされるようになっている。大量のデータもスピーディに閲覧可能であり、サムネイル表示と目次リストにより、目的のページを探し出しやすい。

#### 3-2-2. 国立公文書館デジタルアーカイブ

本サイトも国立国会図書館と同様のシステムを使っている<sup>10)</sup>。トップの検索ページに資料の画像とふりがなのついた書籍名が並び、検索語が分からない人でも興味のある資料を気軽に閲覧できるようになっている(図10)。ページデータの表示方法については、国会図書館とほぼ同様で、読みや



図 11 瑞穂図書館デジタル地域資料

すく扱いやすいものだった。

### 3-2-3. 瑞穂図書館デジタル地域資料

東京都西多摩郡瑞穂町は、広報誌や公的な調査結果などを PDF にし積極的に公開している町の 1 つである。他の市町村のホームページが文字主体であるのに対し、画像を多く使った分かりやすいレイアウトを行っている<sup>11</sup>。また「デジタル紙芝居」や古地図と現在の町並みを連動させた「タイムトラベルいま・むかし」等、ユニークなページ作りを行っている。この 1 つである「瑞穂図書館デジタル地域資料」は、町内の特産品として服飾関係の資料についても取り扱っていることから、今回の調査対象として選んだ。このサイトは瑞穂町図書館ホームページの上部メニューバーにリンクがある。次に瑞穂町の特産品を紹介する「That's みずほーあなたの知らない世界」を選択しトップページへ移動すると「村山大島紬」「狭山茶」「多摩だるま」といった特産品の画像と「瑞穂の方言(音声付き)」のアイコンが現れる(図 11)。

「村山大島紬」のページでは簡単な説明、作品、生地見本の高精細画像、制作風景の動画が見られるようになっている。

このページに図書館ホームページから辿り着くには、ややサイト構成が複雑で、郷土資料等にある程度の興味を持っていないと目にすることはない。しかしページ自体は「初めて見るもの」についての解説としては、説明と動画や画像を使うことで理解を容易にし、興味を引き出しやすい構成になっていた。

### 3-2-4. 英国ヴィクトリア&アルバート美術館「Search the collections」

世界的に有名な美術館の公式ホームページで、コレクションが簡単に検索できるようになっている<sup>12</sup>。

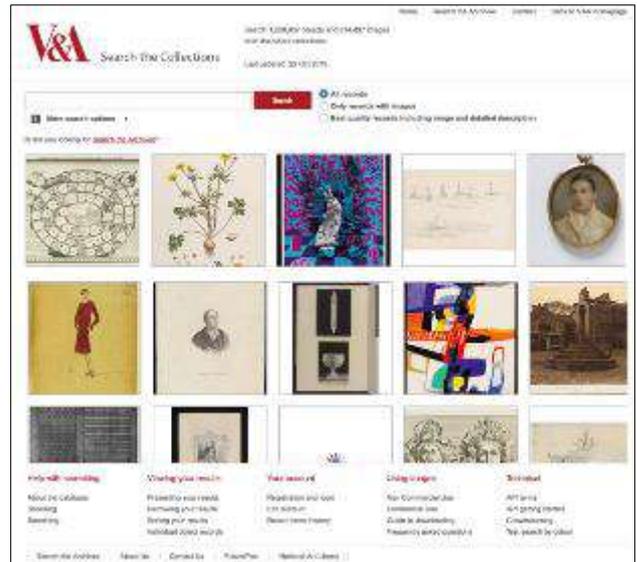


図 12 英国ヴィクトリア&アルバート美術館「Search the collections」



図 13 英国ヴィクトリア&アルバート美術館「Search the collections」作品の簡易紹介ポップアップ



図 14 英国ヴィクトリア&アルバート美術館「Search the collections」作品詳細の PDF

トップページの上部に検索語のフォームがあるものの、1行のみのシンプルなデザインであり、必要に応じて詳細検索のタブを選択できるが、ページで最も目立つのはタイル状に並べられた画像のアイコンである(図12)。この画像アイコンには文字情報はなく、クリックすると作品名、作者名、制作年等の簡単な情報がポップアップ画面で現れる。もしここで「より知りたい」と思えば、ボタンをクリックすると詳細ページに移動し、さらにクリックすると印刷用PDFをダウンロードできる仕組みとなっている(図13, 14)。

このページの特徴は、検索語や専門知識のない人、また英語圏でない人も、画像を頼りに、手軽に興味のある作品を閲覧できるようになっている点である。また3段階に分けて提供される情報量がより詳細になるように設定されているため、どこまで踏み込んでいくのかは見る側に委ねられている点である。タイル状の画像アイコンは、ページを開く度にランダム表示されるので、飽きることはない。またグラフィカルなレイアウトデザインは検索に慣れていない人にも親しみやすいオープンな印象を与える。

### 3-2-5. 英国ヴィクトリア&アルバート美術館「Instagram」

同館は情報発信を積極的に行っており、公式のInstagramでは所蔵作品の画像と簡易的な説明文を投稿している<sup>13</sup>。トップページにグラフィカルな画像が多いこと、特に服飾品については生地や装飾を拡大した詳細な画像も掲載されている(図15)。スマートフォンで容易に閲覧できることから人気となっている。展覧会等のイベントがあれば関連した資料画像が投稿され、それ以外では所蔵作品が分野を問わず取り上げられ、見る度に新しい資料を発見できる仕掛けとなっている。世界各国から集められた約230万点の所蔵品を誇る当館の情報発信・所蔵作品の紹介に適したメディアだといえる。

### 3-3. レイアウトデザインの検討

5つの例から、サイトのレイアウトデザインとコンテンツとの関連性を見てきた。国立国会図書館および国立公文書館に代表される「デジタルアーカイブのデータベース型」は、検索画面に慣れた人に向けたもので、データ閲覧の負担を軽減するために、サムネイル、目次、書誌詳細情報が固定表示といった工夫が随所に見られた。

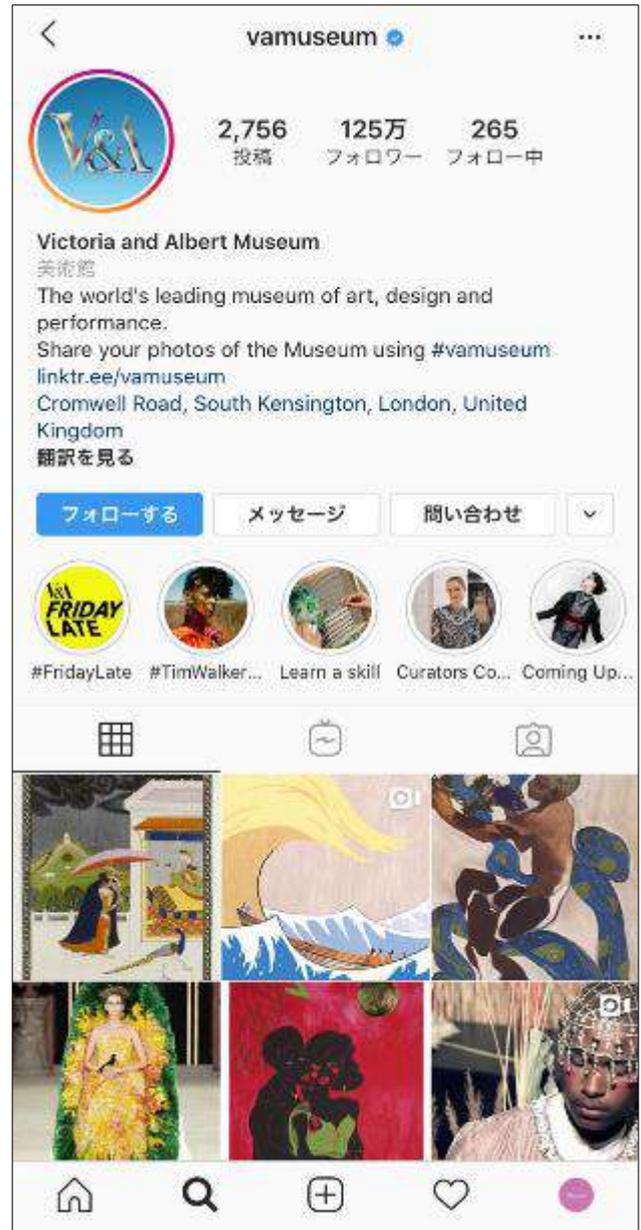


図15 英国ヴィクトリア&アルバート美術館 Instagram 画面

これに対して瑞穂町ホームページのような「一般型ホームページ」は、閲覧できる資料があらかじめ限定されており、検索の自由度は低い。しかし、これまで広く知られていない物事について紹介するには適している。サイト運営側が「見せたいコンテンツ」を選び、詳しい説明や画像・動画資料を添えることで、見る側の興味を引き出し、学びを深めることが可能である。その一方で、ページの内容が固定化されやすく、新しい情報更新も難しい。常に新たな情報発信をしてリピータ

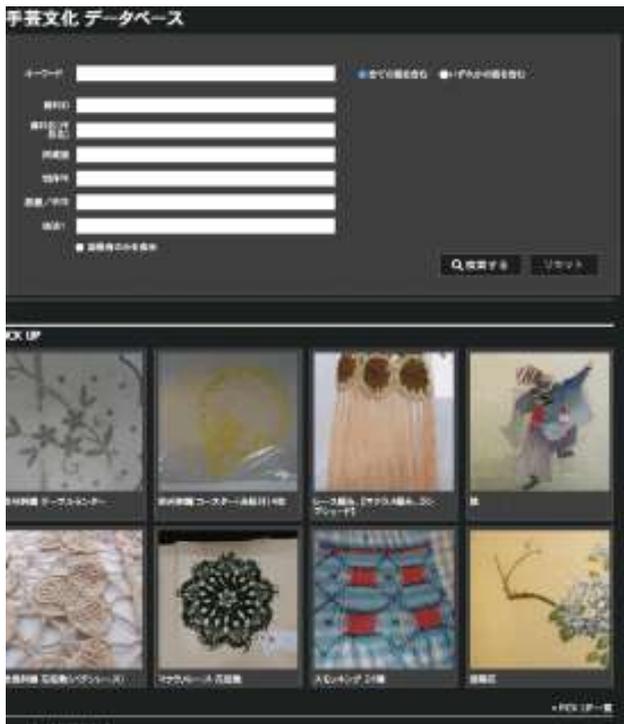


図 16 検証用博物館データベース型サイト「手芸文化アーカイブ」中川作成

一を生むためには、目的別のサイトを複数作成し、それぞれ横断型の関連語検索等の機能を持たせる必要がある。

ヴィクトリア&アルバート美術館の所蔵作品検索ページは、図版を多く使ったグラフィカルなデザインが目を惹き、検索に慣れていない閲覧者にも敷居が低く、また直感的に扱えるように工夫されている。見る側が自分の興味に合わせて、情報レベルを選べるようになっており、より専門的な情報が必要な場合は、段階的に情報レベルが深まるようなサイトとなっていた。また同美術館のインスタグラムは、目を惹く画像が簡単な情報とともに並べられ、手軽に所蔵作品情報を得ることができる。作品を拡大図など魅力的な画像を多く投稿することでリピーターを増やし、同館への興味を引き出すことに成功していた。

#### 4. 新サイトデザインの提案

##### 4-1. 方法

「大妻コタカ著作集」の認知度を上げ、学生の興味を惹き、教育に活用できるデジタルアーカイブのサイトデザインの提案を目指す。前述の通り「大妻コタカ著作集」に収録されている大妻コタカの



図 17 検証用サイト（インスタグラム）型，中川作成

著作は、図版が多いことが特徴である。また内容も和裁、洋裁、手芸、礼儀作法と内容も多岐に渡っている。この特徴を学生に魅力的に発信するレイアウトデザインを考案するにあたり、専門的なデータベース型、一般的商業用ホームページ型、インスタグラム等の SNS 型の 3 種類のサイトを作り、使い心地等について実証実験を行った。

##### 4-2. 博物館データベース型

本研究では早稲田システムズのデータベースを利用した。このデータベースは全国の博物館や図書館などで導入されているシステムで、所蔵品の



図 18 一般的ホームページ型「大妻コタカ著作集\_仮サイト」トップページ，中川作成

データ整理だけでなく、他館への貸出等の管理がしやすく構築されているのが特徴である。今回の調査では、あらかじめ大妻大学博物館所蔵と他 3 大学の手芸作品を 800 点収録したオリジナルの「手芸文化データベース」をベースとしたもので、関連画像や書籍内容を加えたテストサイトを作成し検証に用いた<sup>14</sup>。

サイトデザインはあらかじめ用意されたスタイルを基本とし、トップページに表示させる検索項目と画像の数などが設定できる。トップ画面には、キーワード検索ができるようにした。検索項目も「作品名」「技法」「学校名」「制作年代」と少なくした(図 16)。またページ下部に並んでいる作品画像は、ページを更新される度にランダムに配置されるもので、クリックすると作品紹介が見られるようにした。

検証方法は、6名の学生を2~3人ずつのグループに分け、研究室のパソコンにてサイトを閲覧させ、10分程度自由に検索した後、聞き取り調査を行った。聞き取りの際に特に聞いた内容は、①検索のしやすさ、②使用感、③画像の見やすさ、④参



図 19 「大妻コタカ著作集仮サイト」の書籍解説のページ，中川作成



図 20 「大妻コタカ著作集仮サイト」の書籍内容のフォトギャラリー(拡大時)中川作成

考になるか、⑤今後使いたい、について問うた。

6名に共通していたのは「検索語に何をいれていいのかが分からない」「使い方のコツがわからない」といった意見だった。研究や調べる物事が決まっている人にとって、検索画面は見たいものを短時間で探すのに適したものだが、検索画面を使い慣れていない学生にとっては、見慣れず、検索語をフォームに入力するにも戸惑っていた。また検索語についても「手芸に関する基礎知識がないので、何をどう探していいのかが全く分からない」という意見があった。検索語は「刺繍」や「テーブ



図 21 「手芸文化アーカイブ\_仮サイト」のトップ画面，中川作成

ルクロス」等の平易なもので良いことを伝え、また一緒に検索をして使い方を見せたが、1つ1つの作品を見るのみで、自ら積極的に検索を行うことはなかった。

博物館等の使用を目的とした専門的なサイトは、作品整理や管理等の博物館業務に適した構成となっている。また検索に慣れた研究者等にとっては使い勝手が良いものであるが、学生には使い方が分からず、緊張させてしまうことが分かった。このサイトは、ある程度、閲覧目的が明確な学生には、十分な情報量を与えることができるが、多くの学生に見てもらうための大妻コタカ著作集のサイトデザインには適していないことが明らかとなった。

#### 4-3. SNS (インスタグラム) 型

学生にとって馴染みのある画像を中心とした検索方法を検討した。若い世代に人気のある画像検索の代表的 SNS 「インスタグラム」に、著作集の画像 20 点を載せた仮サイトを作成し、使用感を学生 6 名に意見を聞いた (図 17)。テスト用に作成した画面では、著作の表紙と作品画像が連続して並ぶように配置し、1つの作品につき 3~4 枚程度の画像を加え、左右のスライドで見ることができる仕様になっている。これを学生に見てもらったところ「見やすい」「親しみやすい」「かわいい」という好意的な意見だった。操作方法にも慣れており、学生自身が積極的に画面を触り、作品の画像をス

ライドさせながら見ていた。しかし、作品を見るには手軽で良いが HP 型と比べると画面が小さく、また画像が正方形にトリミングされるため全体像が掴みにくい。また作品の詳細な情報を載せるスペースが少ないこと、画像をスピーディに動かしていくため、学生からは「一つひとつの画像をじっくり見ることはない」「情報が深まらない」という意見がでた。

載せる画像については、画面に映えるように正方形にトリミングするため、縦長のページ全体を載せることは出来ない。また、関心を引くような画像にするには、画像を調整する必要と、審美的な基準から選ばなければならない。

「インスタグラム」のような SNS 型は、専門的な知識や用語を知らない人でも手軽に扱え、画像を手掛かりにし、サイトへ親しみを感じさせるには向いている。また世の中に知られていない書籍や新しい作品について情報発信するには適している。しかし、見る側が好みの画像のみを選ぶため、これだけでは本来伝えたい「大妻コタカ著作集」の全体像や、それぞれの書籍情報、内容、掲載作品等を発信することは出来ないことが分かった。

対面式の聞き取りの中で、ある学生からは「(手芸作品の参考作品を探すには) インスタグラムで画像を見て、ツイッターでは情報を得て、より詳しい作り方などの内容は YouTube で動画を見る」という意見が聞かれた。このように若い世代は Google といった代表的な検索サイトは使う機会はずでに少なく、複数の SNS を用途に合わせて選び、縦断しながら情報を得ている傾向がある。「インスタグラム」や「ツイッター」は新鮮な情報をプッシュ形式で発信する広報的な性格が強いため、あくまでメインサイトの補助的なものと位置付けるのが適しているといえる。

#### 4-4. 一般的ホームページ型

「大妻コタカ著作集」についての解説や収録書籍の内容紹介が可能で、こちらが伝えたい情報を見せることを目的に、一般的ホームページ型のデザインを行った。今回は豊富なデザインテンプレートを基本として、細かなレイアウトを自由に行えるホームページ作成ツール「Jimdo (ジンドウ)」を利用した。

サイト名は「大妻コタカ著作集\_仮サイト」とし、トップページにはテスト用に選んだ 10 冊の表紙画像をタイル状に並べた (図 18)<sup>15</sup>。書籍名、出版



図 22~27 学生による復元作品 上段)『母の手芸』(婦女界, 1939 年) 掲載作品「黒胡蝶型の美しい小物入れ」「可愛らしい白鳥さんの袋」, 「船模様の気の利いたおしめ袋」下段)『初歩の手芸』(忠誠堂出版, 1929 年) 掲載作品「洋服飾」「小犬」, 「うさぎ」

年, 総ページ数を表示した. クリックすると単独の書籍用ページに移動し, 書籍に関する解説, 抜粋したページ画像が並ぶ(図 19). ページ画像は扉, はしがき, 目次, 代表的な作例の図版を選び, 1 冊につき約 20 個の画像をタイル状に表示した(図 20). 「大妻コタカ著作集」のデータを利用したが, スピーディに閲覧できるように解像度を低くし, データを小さくしており, スライドで次の画像に移動できる. それぞれのページはページ上部メニューからも移動できるようにした. 興味のある書籍を読みたい閲覧者のために, 左側には固定タブに, ダウンロードされることについての注意書きをつけた「大妻コタカ著作集」のサイトへのリンクを貼った. またデータベースサイトに不可欠な検索フォームについては, 学生が気軽に見ることができるようにあえて作らなかった.

一般的ホームページ型が持つ「情報が更新されにくい」「閲覧者が見るものを自由に選択できない」「リピーターを増やしにくい」という欠点を解消

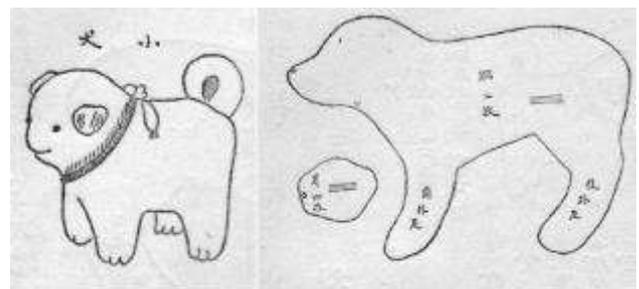


図 28 『初歩の手芸』掲載の「小犬」の完成図(左)と型紙(右)

するために, 横断検索を行う別サイトを作成した. これは大妻女子大学博物館に所蔵されている手芸作品を, 技法別に収録したもので「手芸文化アーカイブ\_仮サイト」とした(図 21)<sup>16</sup>. 大妻女子大学博物館には, 「大妻コタカ著作集」に収録された書籍『母の手芸』や『おさいくもの新書』の作例に似た作品が多数所蔵されているが, これまで関連付けて紹介されたことはなかった. これら

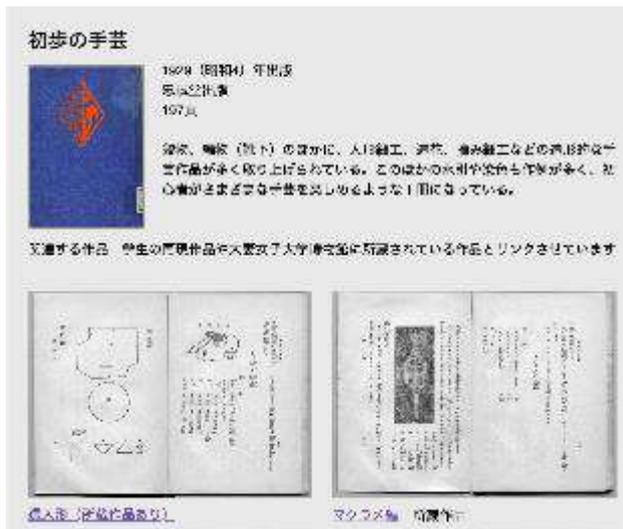


図 29 『初歩の手芸』の紹介ページに復元作品とのリンクを貼ったレイアウト

をリンクで繋ぐことで、書籍、手芸作品、技法、博物館所蔵品に対する興味を引き出すことができると考えた。

## 5. 「大妻コタカ著作集」教育への活用

### 5-1. 作品の復元

学生の学びにつなげるために、著作集の書籍に掲載されていた作例を学生に復元してもらった。手芸を趣味とする3名の学生に、著作集の中から自由に作品を選び、復元作品6点の制作を依頼した。3名とも大妻コタカの著作があることは知っていたが、「大妻コタカ著作集」サイトの存在を知らなかった。

復元作品は、まず学生に「大妻コタカ著作集」サイトを紹介し、好きな書籍から作品を2点選んでもらい「書籍の記載に従って制作するように指示した。なお作品復元を依頼した時期は、まだ新デザインのサイトが完成していなかったために、既存の「大妻コタカ著作集」サイトページを参考にしてもらった。

「大妻コタカ著作集」を初めて閲覧し、全員が「思っていたよりも可愛い作品が多い」と驚いていた。これまで大妻コタカの業績や、本学が手芸学校から始まったことは知っていたが、実際に作られていた作品を見たことはなかった。特に手芸関連の作例に、子供向けの可愛らしく親しみやすい作品が多く印象が変わったという。

復元作品は『母の手芸』(婦女界, 1939年)から

「黒胡蝶型の美しい小物入れ」「可愛い白鳥さんの袋」、「船模様の気の良いおしめ袋」、『初歩の手芸』(忠誠堂出版, 1929年)から「洋服飾」「小犬」、「うさぎ」の6点である(図22~27)。なお、布地の種類、色柄、模様等は、制作者が手に入れやすいものを自由に選択して良いことにした。

制作期間は1ヶ月間とし、自宅等で制作してもらった。完成後には、制作して気がついた点、大妻コタカの著作・作品・サイトについて印象を改めて聞いた。まず作品制作をするにあたり、最も困ったことは「正確な寸法が分からない」ことだったと答えた。型紙が掲載されている作品であっても、型紙のサイズが正確でなく、足りない部分もあり、縫い進めることが困難だったという。また、例えば「小犬」は、掲載された型紙を指示通りに拡大して作ったが、作例の図版とはプロポーションが全く異なる作品となり戸惑ったという(図28)。

技法についても、説明が途中で省略されることが多く、自分で判断しながら作り進める必要があったという。作業を行った3名は普段から手芸を行い、制作には慣れている学生であったが、全員が「制作は難しく」感じ、またバイヤステープの入手や型紙の拡大の指示について「昔の人はどうやって作っていたのだろうか」と疑問に思うとともに「当時の人はこの程度の解説で、作品を制作できる技術と知識を持っていた」ことに気がついたという。

サイト閲覧に際しては、画像の解像度等に問題はなかったが、自由に拡大できないこと、しおり機能等がないために、毎回該当するページを探すのが難しかったという。また型紙の拡大等が必要だったため、作品制作の途中からはページを印刷したプリントも併用して良いこととした。

完成した作品については、「今風のものよりも愛着が持てる」「思っていたよりも可愛くできた」と満足感を感じ、また大妻コタカによる教育内容についても、以前よりも興味を覚えたと答えた。

復元に携わった3名ともが、作品制作を通じて、サイトを閲覧しただけでは得なかった感想や気づきを得ることが出来た。また昭和時代の手芸作品のデザインは、現在の学生には新鮮に感じられ、今後の自分の作品作りに役立てたいと述べた。「大妻コタカ著作集」サイトを教育現場に活かす方法として有用であると考えられる。

5-2. 学生による新サイト「大妻コタカ著作集」\_仮

サイト」の使用感調査

4-4.で作成した「大妻コタカ著作集\_仮サイト」を本学の学生と卒業生35人に使用してもらい、使用感、見やすさ、感想、使う目的を聞いた。

デザインについては「見やすい」80%、「使いやすい」37%、「分かりやすい」37%と概ね公表だった。一方「親しみにくい」との回答が20%であった<sup>17</sup>。また当サイトを「今後も使いたい」と答えた学生は68%であった。またその「使用目的」は「自分の勉強や研究に役立てたい」42%、「手芸作品が好きだから」29%、「作品制作に活かすため」20%、「大妻女子大学の学びに興味がある」19%となった。

サイトへの自由意見は「関連する手芸作品の画像を見ることができてよかった」「図などが多く載っていて、作品作りが好きな人には非常に使いやすい」「普段手芸などをする人には見やすく使いやすい」と、画像が多いことが特に評価された。またサイトには5-1.で作成した復元画像も掲載し、ページ画像とリンクさせたが、このことについても「復元作品が画像として見られるのがとても良い」等、書籍情報と実際の作品がリンクする点も好評だった(図29)。その一方で、より細かな技法分類や、データ解像度を良くすればより見やすい等の意見もあり、今後も改善の必要がある。

## 6. 考察

デジタルアーカイブ化された「大妻コタカ著作集」について、現状把握と問題提起、新サイトデザインの提案、教育現場への活用について述べてきた。明治～大正時代出版された書籍のデジタル化は近年進んでおり、博物館等で公開される機会も増えた。しかし、ただ公開するだけでは閲覧者の興味を引くことは出来ず、せっきくのデータも活用されることがない。

本研究で取り上げた大妻コタカによる著作は、大正から昭和時代の家庭で求められていた家事や裁縫の知識を、分かりやすい文章と多くの図版によって分かりやすく伝えた。このことが長期間に渡って重版されるベストセラーとなり、家政学の普及と大妻学院の知名度向上にもつながった。またこれらの著作は、大妻学院発展の歩みと連動しており、大妻コタカによる教育活動についての理解を深めるものである。

既存の「大妻コタカ著作集」は、当時の書籍の全

文をデータ化し、広く公開したもので、家政系教育および大正～昭和時代の女子教育にとっても重要な存在である。また学生にとっても、本学の学びの原点を知るきっかけとなる。しかし、現在のままでは閲覧しやすいとは言えない問題点も多くあった。

大妻コタカの著作に収録された図版は、現在の学生にとっても新鮮な魅力がある。言葉による検索に慣れておらず、SNS世代とも言える学生には、この画像の魅力を全面に出したサイトデザインを行うことが必要であることが分かった。また大妻コタカ著作集や書籍について、当時の社会的役割や性格、特徴を知らせる必要があると考えた。情報提供の方法については、現状の「ワンクリックで全ページがダウンロードされる」のではなく、ヴィクトリア&アルバート美術館の検索サイトのよう、段階的に情報レベルを深められるような仕組みが望ましいと判断した。

こうした検討結果から、本研究では一般的ホームページ型のサイトデザインを採用し、画像から直感的に書籍内容をみることが出来るサイトを作成した。また学生の興味を深め、積極的な使用を促すために、現存する手芸作品を紹介する別サイトを作成し、著作集の画像とリンクをさせた。学生が画像をヒントにしなが、2つのサイトを横断的に閲覧することで、大妻の家政学の特徴や、大妻コタカ著作集の全体像の把握につながると見られる。また書籍掲載の作品復元を通じて、当時の技法やレベル等を学生自身が体感し、より実りある学びにつなげることができた。

しかし、一般的ホームページ型だけでは、情報を発信して新たな閲覧者を増やすには不十分である。また学生が目を惹く画像を手掛かりにして、手軽に検索することに主眼を置いてデザインしたために、全ページのデータの収録をするには適していない。こうしたサイトを構築し運営するには、データのデジタル化やサイト運営を専門とする人材が必要となるだけでなく、サイトツリーが複雑化し閲覧者が敬遠する懸念も生まれる。つまり1つのサイトでは「著作集および大妻コタカの教育についての説明」「新たな情報発信」「全ページのデジタルデータの閲覧」の目的を果たすことは難しいといえる。

「大妻コタカ著作集」の認知度を上げ、学生の興味を引き出し、大妻コタカの教育について理解を

深めるためには、以下の方法が考えられる。まず、現在、大妻学院ホームページにある「大妻コタカ著作集」サイトに、国立国会図書館デジタルアーカイブのような目次リストとページジャンプの機能、サムネイル表示を追加することで、資料検索をしたい学生や研究者等のニーズに応える。また「大妻コタカ著作集」に関する知識を深めることを目的に、検索に不慣れな学生を対象として、4-4.で作成したような一般的ホームページ型のサイトを作成する。また追加資料等の新たな情報発信の手段として、4-3.で作成したインスタグラムとも連携させる。これらをリンクさせ、異なる性格のメディアを組み合わせることで、当初の目的が達成できると考える。

今後も増加していくデジタルアーカイブ資料については、学生に対して自主的な閲覧と検索を促すだけでなく、授業やゼミナールで資料として扱わせ、検索方法について指導することが必要である。また、原文を読ませる、復元作品を制作させる、サイト運営やデザインを担当させる等、資料に積極的に関わらせることが、今後のデジタルアーカイブ活用につながるといえる。

## 謝辞

本研究は、平成30年度大妻女子大学戦略的個人研究費(S3002)の助成を受けて行いました。ここに感謝を申し上げます。

## 注

<sup>1</sup> 大妻学院「大妻コタカ著作集」URL: <http://www.otsuma.jp/kotaka> (参照 2019-10-24)

<sup>2</sup> カレントアウェアネス・ポータル「国内の文化・学術機関におけるデジタルアーカイブ等の運営に関する調査研究 第2次調査集計結果」(2010年)によれば、国内の図書館・博物館等483機関でデジタルアーカイブ化に向けた別枠の予算があるところは少なく、また専門職員を雇って作業をさせている館はわずか3%であった。約70%の館では、職員が兼務して作業を進めている。画像等の許諾申請等の手続きもあり、職員が他の業務と共に行うには負担が大きい。

また服飾分野のデジタルアーカイブ活用については、データベース構築、現物資料との連携、他機関との横断検索が重要であることが確認されている。文化学園大学和装文化研究所「第2部 3ヶ年を通じての成果報告」『文化庁アーカイブ中核拠点

形成モデル事業ファッションデザイン分野最終報告書(平成27~29年度)2018年, pp.40-49

<sup>3</sup> 大妻女子大学博物館「年表」『大妻学校の原点-裁縫・手芸』pp.41-45, 2016年および学校法人大妻学院『大妻学院80年史』(1989年)

<sup>4</sup> 国立国会図書館NDL ONLINEを利用した。検索語は著者を「大妻コタカ」とし、1970年までに出版された書籍・雑誌について検討した(参照 2019-10-10)

<sup>5</sup> 「シミ抜、色留其の他のお話」『ラヂオ講演集 第4輯』東京放送局編、日本ラヂオ協会他、大正14-15年等、この他にもラヂオ講演をまとめた図書も出版されている。

<sup>6</sup> 著作集のうち『現代裁縫全書』については、1934(昭和9)年初版と1946(昭和20)年版の2冊が収録されている。

<sup>7</sup> 大妻コタカ「うちのお母さまは何でも自分たちの着る物や持つ物を作って下さるといふ、心の誇りは、何といつても子供の幸福の一つでございます。(略)きつとその嬉しかった子供時代を思い出して、ご自分の子供達にも尽しておやりになることでせう。』『母の手芸』婦女界、1939年、はしがきpp.1-2

<sup>8</sup> 調査対象を選定にするにあたりカレントアウェアネス・ポータル「デジタルアーカイブ等の提供機関一覧デジタルアーカイブの調査」を参照した。(参照 2019-10-3)

<sup>9</sup> 国立国会図書館デジタルコレクション URL: <http://dl.ndl.go.jp>

<sup>10</sup> 国立公文書館デジタルアーカイブ URL: <https://www.digital.archives.go.jp>

<sup>11</sup> 瑞穂町図書館「温故知新 瑞穂町を旅する地域資料」URL: <https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Ust/1330310100/topg/thats-mizuho/index.html>

<sup>12</sup> ヴィクトリア&アルバート美術館「Search the Collections」URL: <https://collections.vam.ac.uk>

<sup>13</sup> ヴィクトリア&アルバート美術館「Instagram」URL: <https://www.instagram.com/vamuseum/>

<sup>14</sup> ベースにしたものは、JSPS 科研費 JP 16K01197 の助成を受けて作成した独自のサイトである。公開の許諾が取れていない画像が含まれるため、実験用として非公開で運営している。

<sup>15</sup> 「大妻コタカ著作集\_仮サイト」

URL: <https://otsumakotakadigital.jimdo.com/>, レイアウトデザイン 中川麻子(作成 2019-10-20)

<sup>16</sup> 「手芸文化アーカイブ\_仮サイト」 URL: <https://shugeibunka.jimdo.com>

<sup>17</sup> 新サイトについての使い心地に関して、当てはまるものを複数選択させた。

---

**Abstract**

---

Kotaka Otsuma is an author of many books whose topics range from school education to housewifery and women in general. She has also broadened the basis of home economics education in the Taisho to Showa period. Currently, among her works, 31 books from the library of Otsuma Women's University Library have been digitally archived and published as the “Kotaka Otsuma’s Collection”. Although this collection is important to understand the achievements of Kotaka Otsuma and various aspects of school education in her time, it is not well known to the public and has not been utilized effectively due to the website that was not designed based on an efficient browsing method. This study aimed to propose a method to use the “Kotaka Otsuma’s Collection” effectively through the design of a new website and the restoration of the works by students. As for the method, I first examined five existing websites that use digital archives and created three types of test sites: a museum database type, a social media type, and a general homepage type. Based on a survey on the three sites for students, I found that the general homepage type with many images is suitable for students to perceive the general outline of “Kotaka Otsuma’s Collection” because they can view and browse the content easily. Also, linking multiple websites increased the site recognition level, which led to an increase in the number of viewers. I also concluded that it is useful to actively incorporate digital archives in educational settings, such as work restoration, as a means to deepen the students’ learning experiences.

---

(受付日：2019年10月28日，受理日：2020年3月9日)

**中川 麻子（なかがわ あさこ）**

現職:大妻女子大学家政学部被服学科 准教授

筑波大学大学院博士課程単位取得満期退学.共立女子大学大学院博士課程修了. 専門は服飾文化史, デザイン史, グラフィックデザイン.明治時代およびヴィクトリア時代の染織分野の研究, 明治時代以降の手芸分野に関する研究, 公共空間とアメニティスペースにおけるデザインに関する研究を行っている.

主な著書:”Re-Envisioning Japan: Meiji Fine Art Textiles”(共著, 5 Continents Editions), 『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』『歴史の扉 7 ファッションの時代』(共著, ミネルヴァ書房),